

解答例・全訳

情報化社会の進展は、衰える気配を見せない。今日、動画アプリを開けば、あらゆるものがすでに私たち向けに最適化されており、私たちの好みに合うと思われる動画があらかじめ並べられていることに気づく。オンラインショッピングのサイトを訪れれば、画面は割引されたおむつで埋め尽くされていることが多い。まるで、子どものためにそれを買う時期が来たことを、システムが何らかの形で見越していたかのようである。こうした状況にあっては、自分が何をすべきかを考え、それを自分自身で決める必要など、私たちにはもはやないように思われるかもしれない。人工知能がすでに無数の可能性を最適化し、私たちが効率的かつ快適に行動できるような選択肢だけを選び出してくれているのである。

(ア) しかし事態は、単に私たちが自分にとって最善のものを選びやすくなるという、無害なものではないのかもしれない。スマートフォンやそれに類する機器を使うというだけのことによって、私たちに関する膨大な個人情報が他人の手の届くところに置かれる。そしてその情報は巧みに利用され、利益へと変えられる。絶え間なく流れてくる「おすすめ」に囲まれて、私たちは、ただ最も適した選択肢を提示されているだけなのだと信じてしまうかもしれない。(イ) だが実際には、それは幻想にすぎないのかもしれない。すなわち、その同じ過程が、誰かが私たちの好みや嗜好、さらには物の考え方までも、自分に都合のよい方向へと徐々に作り変えていく、巧妙で気づかれにくい仕組みとしても機能している可能性があるのだ。(ウ) 情報技術が目覚ましい速さで発展し続ける社会においては、私たちが自分の頭で考えることをやめ、ぼんやりとこれらのアプリを使い続ければ続けるほど、それだけたやすく、私たちは搾取するのに好都合な対象へと変わってしまいかねない。